第２回新神戸地域ビジョン検討委員会 会議録

日 時
令和３年６月10日（木）15:00～17:00

場 所
新長田合同庁舎（神戸県民センター）E、F会議室

内 容
意見交換
（議題）骨子案について

出席者

委 員 長　星　敦士	副委員長　乾　美紀
委　　員　井上　哲	委　　員　岩佐　光一朗（代理出席：岡本　勝利）
委　　員　梅澤　章	委　　員　児玉　充弘
委　　員　関口　幸明	委　　員　徳永　恭子
委　　員　永吉　一郎	委　　員　飛田　敦子
委　　員　宮定　章	委　　員　森田　祐子
委　　員　渡辺　元樹	

欠席者
委　　員　辻　幸志

県庁
ビジョン課班長　大町　充弘

県民局
神戸県民センター長　西躰　和美
神戸県民センター副センター長兼県民交流室長　今後　元彦
神戸県民センター県民交流室次長 有吉　智香
総務防災課ビジョン担当班長 西川　理
総務防災課ビジョン担当職員 田原　由加里

内 容

事務局より報告事項について、星委員長より骨子案について説明がなされた後、骨子案について意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

（委員Ａ）

ヒアリングでは、自分の専門が多文化共生というところで、外国人が増えていることにどう対応していくかがすごく気になっているとお伝えした。

今日は４月以降、変わっていると思ったことをお伝えしたい。

まず、本当に助けられないといけない人たちが取り残されている。例えば、高校に進学できる子が少ないということ。兵庫県には特別枠が５校あるが、そこに入れない子もたくさんいる。いくら頑張っても、入れる高校が公立ではないと、高校に行くことを諦めてしまうことにつながる。そして、どんどん優秀な人材が漏れてしまっている現状を、今後変えていかなければいけないと思っている。

入試や奨学金についても、優秀な人が選ばれることは当たり前だが、本当に救われないといけない子が救われてないということを、神戸市をはじめ、兵庫県全体でも考えていかないといけない。

また、神戸にいる外国人の国籍がどんどん多様化している。その人たち、その子どもたちが取り残されないように教育して次世代として神戸や兵庫県に貢献する人材としていかないといけないと思っている。

二つ目に関しては、地方で増加しているということを考えないといけないと思う。今週月曜日、加西市で講演してきたが、工場で働くベトナム人やインドネシア人、中国人がいて、どんどん地方に外国人の人材が入ってきている。しかし、県民の人も市民の人も全然知らないし、外国人当事者も情報が全然入ってこない。このようなギャップを埋めていくことをしないといけない。外国人は都市にいると思われているかもしれないが、そうではなくて地方で増加している。情報を行き届かせるということもしないといけないと思っている。

最後に、学び合いができてない。どうしても支援するという立場になっているが、そうではなくて彼らから学ぶことたくさんある。今はコロナで交流が難しいかもしれないが、外国人は本当に貴重な人材である。英語も話せたり多様な文化を教えたり、言語を持っていたりということは、本当に神戸の宝になると思う。私たちも彼らから学ぶことがあるという低姿勢は絶対に必要である。win-win の関係になるようにシステムを作り上げていかないといけないし、そのためには彼らに教育を受けてもらい、選択肢を増やすことが大事だと思う。

あともう１点だけ、今まで視点がなかった LGBT などの多様性の部分が少し欠けているかなと思った。LGBT 法案のこともあり議論の中心になっているが、外国人や外国にルーツを持っている子どもだけではなく、生きにくい人たちを救っていくこと。LGBT を含めた人達の視点も今後考えていけないかなくてはいけないと思っている。

（委員Ｂ）

骨子案の「２　神戸地域を取り巻く状況（１）①個性・多様性重視」に「やりたいことができる自由」がある。非常に良いことだが、運や努力もあるので、見た人に過度に期待を与えすぎる表現である気がする。例えばその後に、「目指す」などの表現をつけるとよいのではないだろうか。

そして、あるべき姿の「フィットする」という言葉について、お年寄りの方は分かりにくいかもしれない。絶対に変えてほしいといわけではないが、叶う、適するなど、表現を変えることも１つの方法である。

それから、「みんなの希望にフィットするまち」とある。みんなにフィットできれば非常に好ましいが、例えば貧富差や学歴差など個人差があるので、「みんなの」を除いて、多少ぼかした表現にすることも一つの案ではないだろうか。

また、従来のスローガンである「楽しいまち・神戸」が「みんなの希望にフィットするまち」に変わっている。ビジョンを持続的に発展させるためにも、変更理由を読み取りやすくした方が良い。

「自分らしいライフスタイルがうまれる」という項目に、「一人ひとりが希望するライフスタイルに合わせて実現させてくれるまち」とある。私ども古い人間から見たら、自助努力がいらないと誤解される気がする。実現させてくれるという表現ではなく、「一人ひとりが希望するライフスタイルに合ったまち」などの表現のほうが、個人的には腑に落ちる。

最後に「お互いの考え方や価値観、文化的背景、人種・民族、SOGI 、主義・思想を尊重しあうことで、すべての人が望む自分らしいライフスタイルを実現できるまちになってほしい」とあるが、尊重し合うだけで誰もが望むライフスタイルが実現できるだろうか。尊重の背景には、やっぱり軋轢もあり、調整する努力も必要である。そういう意味で自律して、そして尊重することによって、そのようなライフスタイルの実現に近づくだろうと思う

（委員Ｃ）

資料の中にも自治会の話が出ていたが、住民の方々はほとんど自治会の会員であり、95%ぐらいは、自治会に入っている。

先ほども話があったとおり、多くの外国人の方が地域に住んでいる。様々な課題も出てきているが、自治会としても丁寧に説明をして、日本の生活に馴染んでもらえるようにする取組も行っているところである。

（委員Ｄ）

神戸の目指す将来像が、すごく網羅されていると感じる。神戸の特色はやはり多様性である。外国人やLGBTQの方はもちろん、女性がどんどん活躍ができるまちにしていけたらいいと考えている。

それぞれの立場、考え方があり、個性があり、文化がある。お互いを認めながら寛容していくという本当の意味での多様性を、神戸ならではの開放的なまちで、共通の価値観として、市民が共有できるような形にしていけたらいい。

地域の担い手がどんどん少なくなってきている現状があるが、地域とは、市民の生活を支えてまちの魅力を向上させる一番の基礎の部分である。担い手の方も、日々ご尽力されているが、高齢化している中で、若い方や、地域で増えている外国人も含めた多世代、多文化の交流を通じて、地域の魅力向上や活性化につながるような取り組みができないか。

（委員Ｅ）

神戸に農業がこれだけしっかりと残っていることはとてもすごいこと。他の都市部と比較しても、圧倒的な農業総生産高がある。それは、販売をしている販売生産者、専業農家的な方が多いこと、歴史的に見ても非常にいろんな要素が組み合わさった成果でもあると思っている。

その中で農都という言葉が残っていることはすごくありがたい。農家の意見にもあったが、プライドや誇りを持ってしていきたいということを子どもの世代に対しても伝えることができるようなビジョンとなればいい。

農業が残っていることに派生するが、先ほどから出ている神戸の多様性については、技能実習生のみならず、外国人は活躍をしている。特定技能１号の方も含めて、農業をしていたり、農業の経営者として農地を借りて農業をしているということもある。これには、例えば、結婚相手が日本の方で、農地があった等の色んな環境がある。また、農協職員についても外国人の採用を始めた。外国語がしっかり話すことができること、違う文化の中で新しい発想を持って、農業支援で知識を生かしてほしいという期待を持っている。

項目が変わるが、エネルギーや資源の地域内循環という部分について、その有効活用ができるジャンルとして、農業の現場は非常に受け入れる力が強い。

例えば、メタンガスを発生させた後の消化液を受け入れて、それを有効に資源として使うことができる。神戸の特徴の１つとして、個人経営としての飲食店は非常に多いことがあるのではないかなと思う。多様な文化に基づいた飲食店、また個人経営者としての特徴のある飲食店から出てくるような生ごみを発酵させて、メタンガスを発生させて、それによって発電をする。消火液として残ったものは、液状のたい肥として農業で活用する。このようなことが体系的に育てていけるのであれば、それは一つの循環になってSDGsにも通じるところだと思う。

最後に、神戸は農業も多いが、若い方も多い。これは統計的にも明確だと思っているので、若い世代の農家たちが、今後自分たちで考えたことをしっかりと実現していけるようなビジョンになればありがたい。

（委員Ｆ）

骨子案のコンセプトにある「つながる」「うまれる」「そだてる」というのは大事なキーワードである。この中でも特に、人を育てることが非常に重要だと思う。

神戸には素晴らしい学校が多数あり、神戸で学ぶ若い人も非常に多いが、働くとなると東京や大阪に出ていく傾向にある。せっかく良い人材を育てても、他都市で活躍されることになるともったいない。やはり神戸に残って神戸で働く、そしてもっと言えば神戸で暮らして、神戸の次世代を担う子どもを育ててもらえるような循環が必要だ。

そのような循環を実現するには、人が働ける場所づくり、そこで暮らしやすいこと、子育てがしやすい環境であることが求められる。良い人材を集め育て、そしてそのまま働き、住み続けていただけるまちづくりや環境整備がこれからはより一層大切になる。

商工会議所が作ったビジョンでは、企業と企業が繋がって新しいものを生み出していくまちを目指したいとしている。神戸の強みとして「ものづくり」があり、特に今はＤＸの取組みが欠かせないが、ものづくり企業と IT 化・デジタル化をうまく組み合わせ、いかに神戸の新しい産業や優れた人材を生み出し、その強みに磨きをかけていくかが大事。人を育てる循環の中にそのような視点を入れ込み、ビジョンをまとめていければ非常に良いと思う。

（委員Ｇ）

「みんなの希望にフィットするまち・神戸」は、なかなか良いと思う。

また、神戸が世界と繋がっていくとか、歴史と文化を未来につなげるとか、すごく大事なことだなと感じている。それから、新しいアイディアやビジネスが生まれるというところ。昔の神戸は本当に活力があったと思うが、ここに閉塞感があると感じている。住民の力だけではどうしようもないものがあるので、とにかく政治の力で何とかしていって欲しいなということを切に思っている。

都市としてのメリット、文化的豊かさなどが思ったことを実感されていないという点だが、例えば六甲山という自然が活用されていないと感じる。

例えば、小学生の自然学校で、なぜ六甲山を使わないのかと思う。兵庫県には多くの子どもがいるが、我が町に本当に類を見ないような素晴らしい自然があるので、もう少し子どもの教育に活用するということが大事ではないかと感じている。

「こうあるべき」「こう与えられるべき」「こういうシチュエーションを用意しよう」ということがたくさん書かれていると思うが、住民が自分たちの地域活動などを通して、考えることで行動ができる。考えるということがとても大事かと思うので、そういう視点を入れていただければと思う。

それには、まず自分のホームグラウンドが必要なので、そこは神戸というまちを活用しながら、子どもへの教育などを行っていければと思う。

（委員Ｈ）

初見の印象は、ひらがなと漢字とカタカナのバランスが非常にいい。このようなものは読んでもらってこそのものなので、商売柄そう思ったのかもしれないが、すごく読みやすいと思った。まず、言葉づかいの一つ一つが非常にやさしい。やさしいというのは、簡単で易しいという意味と、優しいという両方があるかと思うが、そういう文章だと思った。

内容も、神戸の良さ、リソースの豊かさをしっかりカバーされていると思う。

ただ、先ほども意見があったかと思うが、そういう神戸の良さ、魅力が生かしきれてないという視点が、どこかに必要だと思う。せっかく美味しくて栄養たっぷりの料理だけど、よく噛みしめて、味わえていない。その栄養の豊かさや、体にいいことを実感できていない。そこが具体的な施策にもなかなか生かしきれていないのかなという思いを持っている。

皆さんが、「この料理や食べ物がいい」と思うときには、こんな栄養があるという知識の部分とか、すごく腕利きのシェフが作っているということ、食材がいいということ。知識の部分と、これは美味しいという他人の評価、コメントが相まって、「やっぱりいいよね」、「やっぱりこれはどこにもないとびきりのものだ」と実感すると思う。

神戸というまちには本当に魅力があって、こういうことができるということに加えて、そういうことに気づこう、見つけていこう、再発見しようというくだりがあれば、さらに読んだ方がビジョンを自分のものに引き寄せられるのかなと思った。

（委員Ｉ）

私の解釈としては、地域ビジョンを作るということには、これから都市化競争に勝っていかなければいけないという大きな目的があると思っている。その前提で意見を述べたい。

新型コロナ感染症の対応で、みなさん大変な思いをされてきたと思う。その間に災害もあり、暴風もあり、色んなことで我々は悩まされてきた。本当に不安定な時代になった。今までもきっともしかしたら変わらなかったかもしれないが、温暖化の影響でさらに昔では想像もしなかったような地球レベルの変化が起きている。どんなことが心配かというと、感染症対策、突然の局所の暴風雨、絶対に発生すると言われている東南海地震、政治経済の話では米中覇権争いでの日本の立場、オリンピックの後の総選挙に、県知事選に不安定要素だらけ。少し狂っただけで、どのような姿を描いても、多分一瞬にして狂ってしまうと思う。

この１年半でこれを止めたらまずいと思っていることが３つある。それは、産業、市民生活、教育である。地域ビジョンは、あくまでも柔らかく方向性だけ決めといたらいいという意見もあるのかもしれないが、ニュアンスレベルでもいいので、この不安定な要素から、どうやって町や市民を守るのかという要素があるとすごくいいなと思っている。

止めるなというのは無理だと思うが、止まらないようにしようというぐらいであれば、例えば、デジタルやITの力もあるし、組織改編の力、或いはどこかの壁を取っ払うなど、できることはいっぱいあると思う。

国レベルで考えることだと僕もずっと思っていたが、どうもそうではない。法律レベルは無理かもしれないが、人の動きや創意工夫は自治体レベル或いは市民レベルでできることだと思うので、その手助けになるような方針みたいものを打ち出してもらうと、すごく安心感がある。

（委員Ｊ）

一つは、コンセプト図の中の真ん中、あるべき姿の「みんなの希望にフィットするまち・神戸」ということ。前向きで良い言葉だと思う反面、先ほど星先生の説明の中で、ディルケムの「人々が自立的になるほど社会的な連帯が必要になる」という話があったと思う。A さんと B さん C さんの希望はそれぞれ違って、時々かちあってしまうことがあるのではないか、と少し気になった。

例えば、ダイバーシティってすごく便利で多様性で良い言葉だが、それだけだとみんなバラバラになりかねないと思う。個人的には、ダイバーシティとインクルージョンはセットがいいのではないかと思っている。みんなの希望にフィットして、さらにそれが共生にも繋がるとか、少し相反するけども、その両方が尊重されているものが真ん中にあると良いかなと思う。

二つ目は、「つながる」「うまれる」「そだてる」という切り分けもすごく分かりやすくて、螺旋状に上がっていくようなイメージを持った。「つながるまち」と「うまれるまち」では、協働や連携、多様なアクターが非常に色濃く出ているが、「そだてるまち」では少しトーンダウンしたような印象を受けた。

育てることは一過性とか点のものではないので、多セクター連携や協働は、育てる段階でこそ本領発揮するのではないかと思っている。

例えば、「地域を支える人をそだてる」と「市民活動の担い手をそだてる」が別に分かれているが、もしかしたらこれを一つにして「多様な主体がともに社会をそだてる」というのを入れていただくのはどうかと思う。

私は NPO の分野だが、コロナ禍で、実質プロジェクトを立ち上げていく段階で、企業や大学と一緒にやっていくと NPO 単体だけではできないことができていくと特に実感した。その辺のトーンを一段階上げる、もしくは具体的な文言入れると、より良いのかなと思った。

（委員Ｋ）

これからまだ詳細を追加されると思うが、２ページに記載されている 30 年後の課題設定について、もう少し説明があり、県民とも共有できると良い。意見を聞く場を設けると、大体は現在の課題設定から想像して意見を言われる可能性があると思う。全て具体的には無理だと思うが、ビジョンの一つ一つの文言に、どの課題が繋がるのか、課題の説明が理解・共有されると、こういう世の中になるのかというところから協力・実践してもらえるのではないかと思った。課題の捉え方が、時代によって変わってきている。おそらく価値観ももしかしたら変わってくるかもしれないので、今の課題がなかなか掴みにくい方々にも、課題の共有が理解されていると、少しでもビジョンに興味を持って見てもらえるかなと思った。

（委員Ｌ）

今回、骨子案の「つながる」「うまれる」「そだてる」というコンセプトは非常に綺麗にしっくりきた。ヒアリングでも、自身が「繋がる」ということを強調していたし、仕事上でも、繋がりが何かを生み出す一つのベースになるということを肌で感じたところであるので、繋がりからはじまって、生まれて育てるというのは、なるほどと思った。

「つながる」に「世界に発信」というものがある。この項目では、世界が３つ出てくるが、個人的には仕事柄もあり、世界という言葉からは、海外やインバウンドをイメージしてしまう。ただ、書かれている内容が非常に良い。神戸以外の日本国内、地域、地方に対しての発信も大事だと思った。「世界」を地球上の人間社会全てだとすれば、もちろん日本国内も含めた「世界」になるとは思う。しかし、世界が海外と捉えられてしまう可能性を考えると、国内を含めていることを分かりやすくするためには、もっと他の表現や言葉を使うとよいのかなと思った。

また、「地域の中で多様な人組織、企業がつながる」ことは非常に大事なことだと思っている。人や組織が自分たちの地域のことを考えるということ、二つ目は地域の課題を知る、課題解決に関わる機会をつくるということ。

組織や企業は課題解決という視点を持つが、一般市民はなかなか課題解決するという視点を持って行動を起こさないかなと思った。自分もネクタイを締めて組織に属しているときは、課題解決という頭脳になるが、土日の地域にいるときは、あまり課題解決という脳がまわらない。

人、組織が自分たちの地域のことを考えるときは、どちらかというとポジティブな考え方をしているときだと思う。地域をよくしたい、元気にしたい、助け合いたいと考えた中で、結果として課題に気が付いていくのかなと思った。二つ目の組織や企業の方が課題を見つける機会を作るというのは、もちろん大事だなと思ったが、もう少しポジティブ的に書くことができるといいと思った。人や組織が、まずは自分たちの地域のことを良くしようと思って、地域を考えていく中で、結果おのずと通る道として課題を考える、という道筋になるのかなと思う。その辺りがうまく表現できるといい。

（委員長）

様々なご意見ありがとうございました。こういうふうに変えていったらいいかなということがとてもイメージできる示唆を沢山いただいた。

LGBT をどう書き込むかは悩んだところ。LGBTQ+とも言うが、性的指向のマイノリティーのカテゴライズと考えると、私はこのビジョンでは SOGI を使いたいかなと思った。

つまり、マイノリティーを表現してこの人たちの権利を守りますみたいな表現をするよりも、あらゆる性的指向であり性自認の人を包摂するという方が良いのかなと思ったところがあり、LGBT を使わないで書けたらいいなと思った。

「骨子案について」という資料の 10 ページに、「お互いの価値観を尊重し合って」という中に SOGI という、つまり性的指向で性的アイデンティティというものを含もうかなと思ったが、LGBT という言葉は入れたほうがいいか。

（委員Ａ）

入れた方がいいと思う。SOGI を書くのであれば、LGBTQ も入れておいた方がいい。SOGI よりも LGBT の方が、まだ一般的かなと思う。性的指向という言葉でもいいが、この５ページの所は少し気になっていた。

（委員長）
LGBT を尊重するというのが変な日本語になってしまう。お互いの価値意識や背景、宗教、人種民族と並べていくと、SOGI を用いるのが良いと思った。
SOGI を用いないで、まだ性自認や性的指向というふうに書いた方がまだわかりやすいか。

（委員Ａ）
いいと思う。どう表現するかは、一緒に考えていきたい。

（委員長）
基本的な考え方として、お互いの立場を尊重するという立場の例として、どういうフレーズを入れていくかといった問題になってくると思う。またご相談したい。

（委員Ａ）
多様性と包括という言葉は入れた方が良いと思う。もちろんダイバーシティは大切だが、それから彼らをどうやって包括していくか。先ほど、外国人の子どもたちをどう生かしていくかということをお伝えしたが、共通の認識でビジョンに入っているとすごくいいと思った。
また、違う観点にはなるが、シームレスやリスケールなど、全体的に少し難しい言葉が散在しているので、簡単な言葉にするか言葉の解説がいると思う。
言葉の難しさは、パブリックコメントを出したときに指摘されることが多い部分になるので、なるべく簡単な言葉にしていかないといけないと思った。
最後に、骨子案の７ページ以降の内容について、もう少し説明を聞きたい。

（委員長）
ビジョンは 30 年後の話になるので、結局ざっくりと「こうなっていったらいい」とか「こうしていきましょう」という抽象的な内容になってしまう。
そこで、どう行動すれば、その将来像に近づくことができるのか。そういう方向性の種や芽が、「今はこういう取り組みがあるが、こんな取組がもっと普通になっていくといい」というような事例紹介が入った方が、読んだ人にイメージできるのではないかと考えた。
最終的な表記の仕方は節として分けるか、各ビジョンの下に枠組みで記載するかは未定である。今回記載している事例は精査できていないが、入れるならば、こういう内容のもの、ということをお示しする趣旨である。
委員のみなさまの周囲で、「ビジョンとしては 30 年後を見通すことだが、これはゼロベースで始まっていくのではなくて、すでにこのような取組が周囲にある」ということが、イメージできる形で入った方がいいと思っている。
今後、ここにいれる素材については、事務局から照会する予定である。併せて、その内容や記載の仕方が適切かどうかも含めて検討させていただく。

（委員Ａ）
少し先の話になるが、パブリックコメントがあることを見越すと、骨子案を１枚の紙に図示して、分かりやすくする作業もあるといいのではないか。
キーワードだけをとり、柱立てがわかって、こういうふうにやっていくんだ、という問題提起や内容、今後のビジョンが分かるような図がつくれたらいい。簡単な案ができれば、委員がこうした方がわかりやすいのではないかと検討していく。

（委員長）
　中央官庁のような目がチカチカするようなパワーポイントのようにはしないほうがいいと思う。骨子案の３ページにあるポンチ絵に情報を加えるイメージでよいか。

（委員Ａ）
　この図は分かりやすいので、ここにもう少し具体的な文言や具体例を落としていったりする作業をしていけばいいかもしれない。キーワードを出して、それについて実践例や課題を挙げていくような順番がわかるようなものが作れたらいいなと思う。１枚を見たら全部わかるように、実現可能性が高いことを示せるようなものを、ゆっくり考えていければ。

（委員長）
　まとめ方、出し方としては、いわゆる伝統的な難しい文章で冊子になっているものだけでなく、いろんなバージョンが必要になってくると思う。
　全県のビジョンが工夫しているように、１枚ですぐわかるレベルから、細かい内容のものまで。そういう見せ方の工夫や表現の仕方は、もう少しビジョンがまとまって発信していくときに、また一つ議題になってくると思う。
　他に意見がある方がいれば。

（委員Ｇ）
　個人的に気になっていることだが、兵庫県だけが海外に県の事務所を持っていて、その中にパリ事務所がある。
　兵庫県だけがパリ事務所を持っているのは、県の見識の高さを示しているものだと思う。これまでのそこで培ったものを、ほとんどの県民は知らない。
　その辺りも周知して、何とか持ちこたえて存続させていただきたい。
　事務所を通して海外の文化も入ってきているので、ビジョンを考えるときに、そのあたりも押さえていただければなと思う。

（事務局）
　ビジョンに絡めてということであれば、具体的すぎて言い方が難しいかもしれない。

（委員Ｇ）
　海外との接点という意味としては大きなものがあると思う。自然にほっておいたら、何となくいろんな流れの中で無くなっていってしまわないかなと心配している。

（事務局）
　パリ事務所をはじめ、香港やブラジル、シアトルなどで海外事務所がある。
　コロナで活動量は低下しているが、それぞれにしっかりとしたベースの目的がある。パリ事務所だと、ここ最近は日本の食、特に兵庫県産の食を EU の各国に売り込んでいくという前線基地という役割を果たしている。コロナが少し落ち着いてきた場合は、そこにまた力を入れていこうと作戦は考えている。
　かつてはフランスやドイツと、長い間友好提携してきた県や州がある。ドイツのシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州とは長い友好提携があるし、フランスであればアヴェロン県やセーヌ・エ・マルヌ県などと交流して、友好事業を行ってきた。しかし、最近の海外事務所は、むしろ経済面での役割として非常に重要になっているので、そこはしっかり押さえなが

らやっていくことになる。
　ただ、繰り返しになるが、今の考えている地域ビジョンの中で、具体的に記載することは難しい。

（委員Ｇ）
　確かにビジョンに具体的に記載することは難しいとは思う。ビジョンとは別として、このような意見があるということでお願いしたいと思う。

（委員長）
　そろそろ時間となったので、以上とさせていただく。
　今日の意見交換の中で出していただいたご意見を事務局で取りまとめて、この骨子案に反映させていくという作業が始まっていくことになる。
　また、素案作成にあたり、具体的なイメージができる事例については、委員の皆様方にいろいろ教えていただきたいところもあるため、事務局から別途依頼させていただく。
　第３回の委員会が１１月頃に開催となり、素案の検討となる予定で、別途日程調整等をさせていただく。